

「ボックス連歌」採用句発表

初折裏第十四句講評

(選者 行橋市連歌企画委員 前田賤)

今回は十三名の方から応募をいただきました。
そのうちから次の句を採択させていただきました。

初折裏

十三 子らの声舞ふや吹雪の花は八重

康一 春

十四 うららかにあれ国の内外

かおる 春

今の時代に生き、将来を担う希望そのものである子どもたちの上に舞いちる花吹雪。何とうらかな情景でしょうか。子どもはもちろん、世界中が柔らかい日ざしにあふれ、晴れやかに落ち着きますようにとの願いを込めての挙句ですね。願いまししょう。かなわない願いはないと言います。国の内外何処もうらからかでありますように。

今回を持ちまして半世吉満尾いたしました。長いお付き合いありがとうございました。

発句にありますように行橋は連歌の町です。秋の連歌大会、学生のための連歌講座は二十年近く続いていましたところ、今回のCOVID禍に見舞われました。けれど、それに替わるボックス連歌が多くの方々のご支援で無事終了しましたことを心から感謝申し上げます。

令和2年7月から募集を始め、令和3年2月までの期間で、2週間に1句ずつ募集し、約8ヶ月間に渡って詠みつなげたボックス連歌。皆様のご協力で見事、半世吉が完成しました。ここに深く感謝申し上げます。完成したボックス連歌は貴重な記録としてまとめさせていただき、皆様にお配りできる形にする予定です。

【問合せ】

〒824-8600

福岡県行橋市中央一丁目1番1号

行橋市教育委員会 文化課

TEL 0930-25-1111 (内線1167)

ご応募

ありがとうございました

ございました

